

第73回日本PTA全国研究大会石川大会 報告

《大会スローガン：「サステナブルな未来づくりのために」～創造と協働を 石川から～》

8月22日・23日の両日、第73回日本PTA全国研究大会石川大会が開催されました。標記のスローガンのもと、「創造的・協働的な学びをつくるPTA活動を推進します。」「学びを生かし新たな行動に結び付けていくPTA活動を推進します。」「サステナブルな環境や地域づくりを働きかけるPTA活動を推進します」という3つのメインテーマのもと、一日目は分科会、二日目は全体会が行われました。全体会ではアトラクションとして、金沢子どもはしご登り教室による加賀とびはしご登りが披露されました。記念講演は石川県副知事の浅野大介氏による講演が行われました。「能登の創造的復興と学びの環境～ 学習環境の魅力化あってこそその復興～」と題し、生業（なりわい）の再建とともに、子どもたちの学びの環境再建・魅力化なくして持続可能な復興は成立しえないとの考えをお話いただきました。



石川大会

道P連からは6名が参加し、分科会はいずれも第5分科会「広報活動」に所属しました。参加者を代表して、南川達彦副会長から分科会のようすを報告します。

【分科会報告】

日本PTA全国研究大会 石川大会 広報部会の分科会に参加しました。テーマは「PTAの課題」について、①いまの学校現場、②仲間づくり、③これからの広報、の3部構成でパネルディスカッションが行われました。

第1部では、先生方の多忙化により業務に支障が出ている現状が報告されました。その中で、学校の授業や業務とPTA活動を連携させることで学校の悩みを軽減できた事例や、先生側からPTAに頼むことは立場的に難しいのでPTA側から活動の提案することが有効であるといったことが実例を交えて報告されました。

第2部では、PTA継続のための「仲間づくり」について、各務原市PTAの取り組みが紹介されました。同市では役員を立候補制とし（単位PTA会長でなくても可）、無理に引き受けさせるのではなく、やりたい人が活動できる体制を整えた結果、活動が活性化し、各校の会長はそれぞれの学校活動に専念できるようになったそうです。現在では県P連や単位PTA会長も立候補制が広がりつつあるそうです。「やりたい人、できる人、一緒にやりたい人が役員を担うべき」という考え方は、今後の組織運営に学ぶ点が多いと感じました。

第3部では、PTA広報の課題について議論されました。「改善したいが、できる人がいなく、結局は例年通りになってしまう」という悩みが共有される一方で、今後の方向性として多様な事例が示されました。元PTAで雑誌編集に携わったパネラーからは、「SNS活用が注目されるが、双方向の交流を目的とするのか、一方的な周知を目的とするのかを見極めてツールを選ぶことが大切」との指摘がありました。また、保護者や子どもたちへの印象を高めるために案内文を色付きの紙で配布した事例や、双方向のやりとりにロイロノートを活用した事例も紹介されました。

今回の分科会を通じて、悩みを共有し合いながら課題解決に向けて行動を続けることの大切さを改めて感じました。特に、デジタル化を推進する立場のパネラーが語った「PTAを含めた学校活動は、デジタル化の前にオフラインファースト。人と人とのつながりが大切！」という言葉が心に残りました。PTAは、子ども・先生・親をつなぐ場であると同時に、親同士の仲間づくりの場でもあります。こうした関係づくりがうまくいけば、学校もPTAも円滑に運営されるはずです。

PTA活動に関われるのは今だけです。人とのつながりを大切に、親自身が成長できる場として楽しみながら、これからも活動を続けていきたいと思えます。

【報告：北海道PTA連合会副会長 南川達彦】